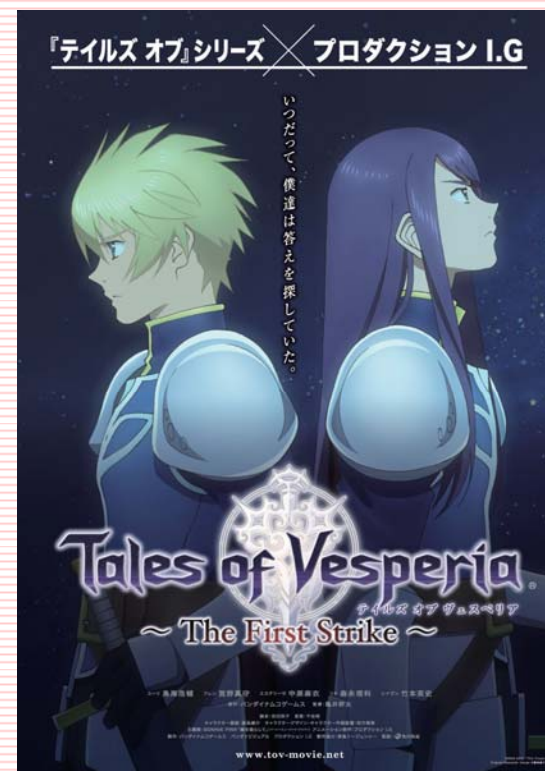


決算説明会資料

→2009年5月期決算



Listed company 3791



劇場アニメーション「ホッタラケの島～遙と魔法の鏡～」

© 2009 フジテレビジョン/Production I.G/電通/ポニーキャニオン

劇場アニメーション「テイルズ オブ ヴェスペリア ～ The First Strike ～」


©2009 NBGI/TOV Project
Original Character Design©藤島康介

2009年7月31日

株式会社IGポート

企業概要

- 社名 株式会社IGポート
- 証券コード 3791
- 上場市場 JASDAQ証券取引所
- 上場日 2005年12月21日上場
- 所在地 東京都国分寺市
- 代表者 代表取締役社長 石川 光久
- 資本金 701,400千円(発行済株式数48,952株)
- 設立時期 1990年6月(創業1987年)
- 事業内容 アニメーションの企画・製作、コミック出版および版權事業
- 従業員数 連結211名 (2009年5月末現在)
- 子会社 株式会社プロダクション・アイジー(連結)
株式会社ジーベック(連結)
株式会社マッグガーデン(連結)
Production I.G.,LLC(非連結・米国)
他作品製作委員会5社(持分法適用会社)



決算の概要

2009年5月期決算概要(前年同期比)

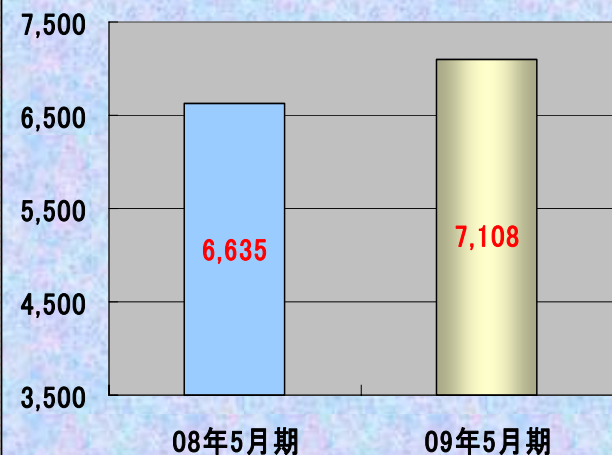
当期実績は、前年比増収・大幅減益となった。

■売上高の増加は通期連結となったコミック専門出版社である株式会社マッグガーデンが寄与した。利益面では著作権収入の前年比減少と映像マスター償却負担の増加、及び映像制作事業の粗利率悪化により大幅減益となった。

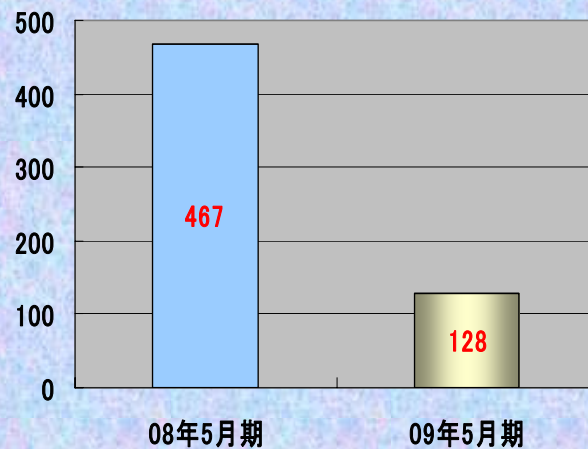
■当期より通期連結となった株式会社マッグガーデンはコミックの適正配本による返本率の改善等により利益面で貢献。

■連結売上高	7,108百万円(前年比)	+473百万円	+7.1%
■連結経常利益	128百万円(前年比)	▲338百万円	▲72.4%
■連結当期純利益	22百万円(前年比)	▲178百万円	▲88.6%

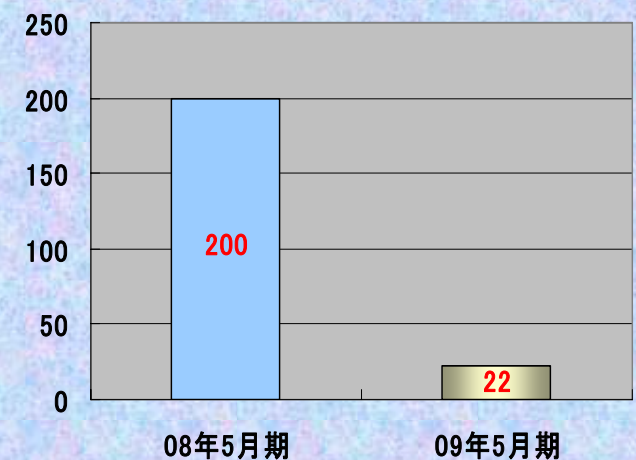
売上高



経常利益



当期純利益



単位:百万円

2009年5月期決算概要(計画比)

当期実績は、計画比減収・減益となった。

■売上高は放映を見込んでいたTVシリーズ1作品が中止・またコミック出版点数の計画対比減から若干の未達となった。

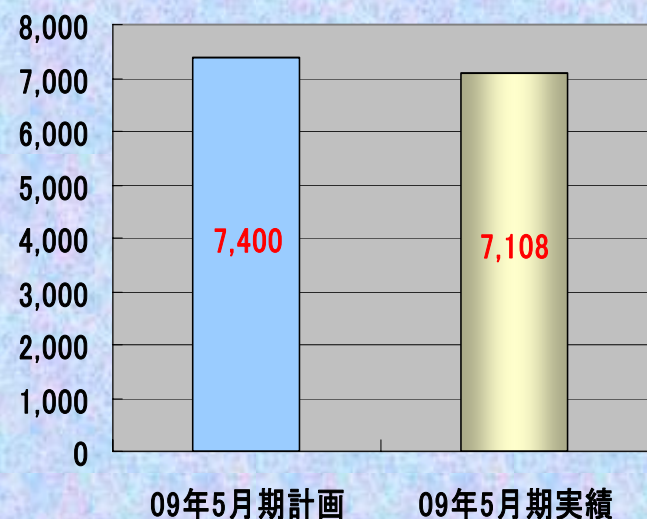
■利益面では4月より放送開始の映像制作事業の粗利率の悪化、および当期見込んでいた著作権事業収入の一部計上が10年5月期に繰り延べられたため計画を下回った。また、利益面の計画未達には繰延税金資産の取り崩しも影響している。(差異理由詳細は後述)

■連結売上高……………7,108百万円(計画比 ▲291百万円)

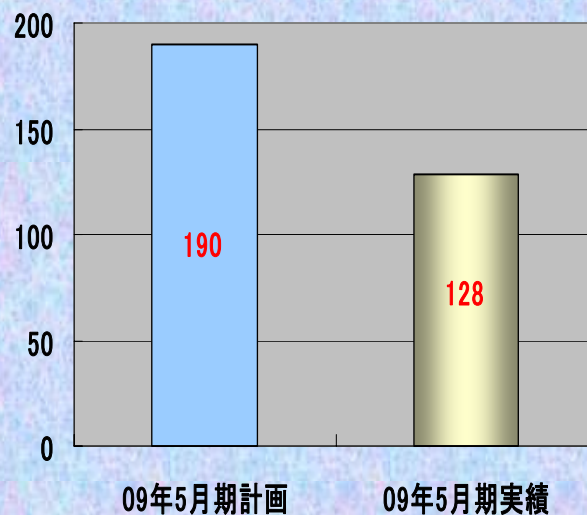
■連結経常利益……………128百万円(計画比 ▲61百万円)

■連結当期利益……………22百万円(計画比 ▲27百万円)

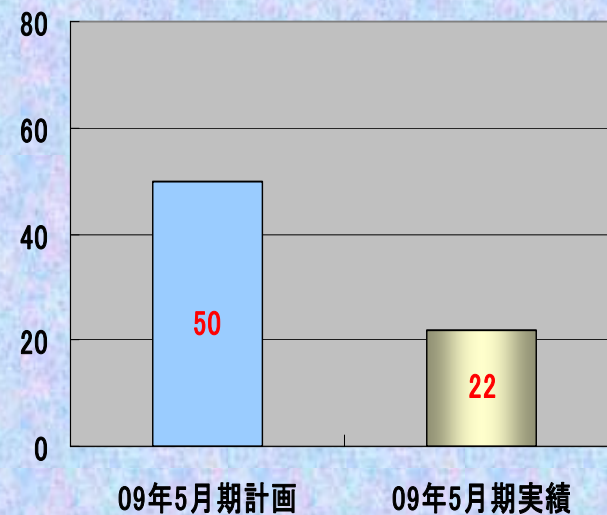
売上高
(09年5月期実績:対計画)



経常利益
(09年5月期実績:対計画)



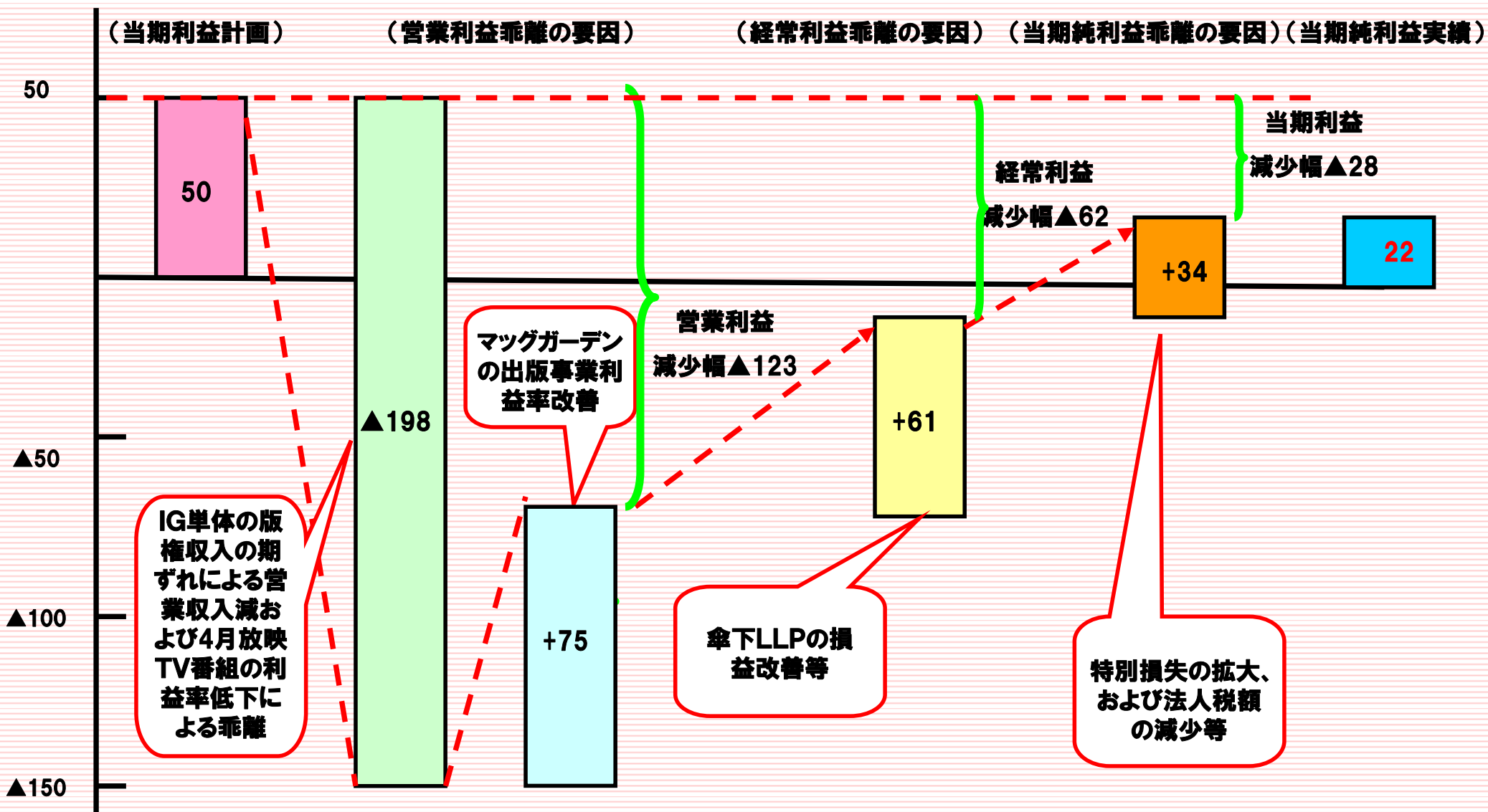
当期利益
(09年5月期実績:対計画)



2009年5月期決算概要(計画対比差異分析)

営業利益・経常利益・当期純利益の乖離は下記の要因による。

計画対比では映像制作事業・著作権事業の計画未達を出版事業でカバーする構造となった。



2009年5月期決算(連結損益計算書要約・前年同期比)

単位:百万円

	2008年5月期	2009年5月期	増減率
売上高合計	6,635	7,108	7.1%
映像制作事業売上	4,749	4,887	2.9%
出版事業売上	1,093	1,445	32.2%
版權事業売上	727	697	-4.2%
その他売上	64	77	19.5%
売上原価	5,474	6,159	12.5%
売上総利益	1,145	978	-14.6%
(売上総利益率)	17.3%	13.8%	
販売費・一般管理費	714	830	16.3%
営業利益	431	147	-65.8%
(営業利益率)	6.5%	2.1%	
経常利益	467	128	-72.4%
(経常利益率)	7.0%	1.8%	
特別利益	68	3	-95.3%
特別損失	130	54	-58.4%
当期利益	200	22	-88.6%

コミック専門出版社マッグガーデンが通期連結(08年5月期は下期のみ連結)となり出版事業は大幅増収

映像制作事業で4月放映作品の粗利率が悪化したこと、アニメ作品の出資分である映像マスターの償却増などにより売上原価は大幅増

販管費はマッグガーデンの通期連結により大幅増

08年5月期は映像マスターの償却期間見直しに伴い、放送から1年以上経過した作品の映像マスターを一括して特別損失で処理したため、大きく特損を計上していた。09年5月期は過年度退職給与引当費用と投資有価証券評価損を計上

コミック専門出版社マッグガーデンを通期連結したため、出版事業売上が増加し、売上高は大幅に増加。ただし、マッグガーデンの連結により販管費も増加、また映像制作事業での粗利率低下、アニメ作品への出資である映像マスターの償却負担も大きく売上原価は大きく増加し、大幅減益となった。

2009年5月期決算(連結貸借対照表要約・前年同期比)

単位:百万円

		科目	08/5月期	09/5月期	08/5 ~09/5
			金額	金額	差額
資産	流動資産	現金及び預金	2,117	1,595	-522
		売掛金	1,570	1,367	-203
		商品および製品等	846	1,131	285
		繰越税金資産	61	67	5
		前渡金	666	265	-401
		その他	122	294	172
		流動資産合計	5,386	4,721	-664
	固定資産	有形固定資産	1,038	1,322	283
		無形固定資産	297	263	-33
		投資その他資産	526	419	-107
固定資産合計		1,863	2,005	141	
資産合計		7,249	6,727	-522	
負債	流動負債	買掛金	793	530	-262
		短期借入金	400	250	-150
		未払金等	475	407	-68
		前受金	869	881	11
		賞与引当金等	12	13	0
		返品調整引当金	94	65	-29
		その他	247	197	-50
	固定負債	退職給与引当金	-	55	55
負債合計		2,892	2,399	-493	
資本	株主資本	資本金	701	701	0
		資本剰余金	1,842	1,842	0
		利益剰余金	1,843	1,856	13
		自己株式	-30	-72	-42
	純資産合計		4,356	4,327	-29
負債・純資産合計		7,249	6,727	-522	

新社屋用の固定資産取得のため現預金は減少。

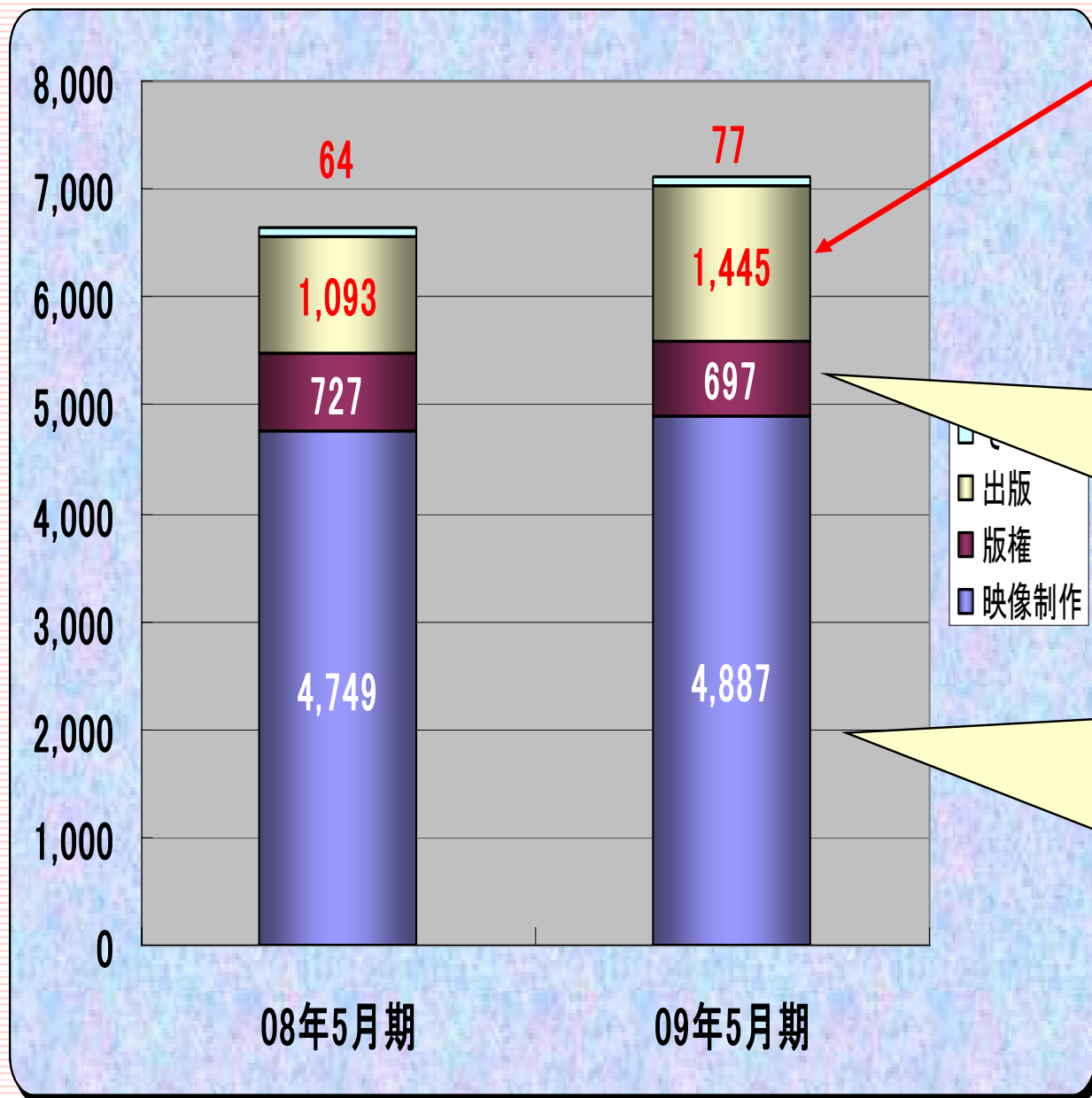
4月放映TVシリーズ放映の減少により外部制作会社への前渡金の減少

4月放映TVシリーズ放映の減少(前期末本⇒本)により外注先への支払い減

全般的に見て、前期末より4月放映のTVシリーズが少ないため総資産の減少となった。

2009年5月期決算(セグメント別売上・前年同期比)

単位:百万円



出版事業収入
 コミック専門出版社株式会社マッグガーデンが09年5月期より通期連結により出版事業売上は大幅増加

著作権事業収入
 08年5月期
 「攻殻機動隊 S. A. C.」「BLOOD+」(海外番組販売)「シュバリエ」(海外番組販売)「エヴァンゲリオン」等で著作権事業売上は構成。

09年5月期
 「攻殻機動隊 S.A.C.」「エヴァンゲリオン」「RD 潜脳調査室」「図書館戦争」「スカイ・クロラ」(海外上映権販売)等で構成。

映像制作事業収入
 08年5月期
 「精霊の守り人」「ウェルベールの物語」「ヒロイックエイジ」オーバードライブ」等を制作。

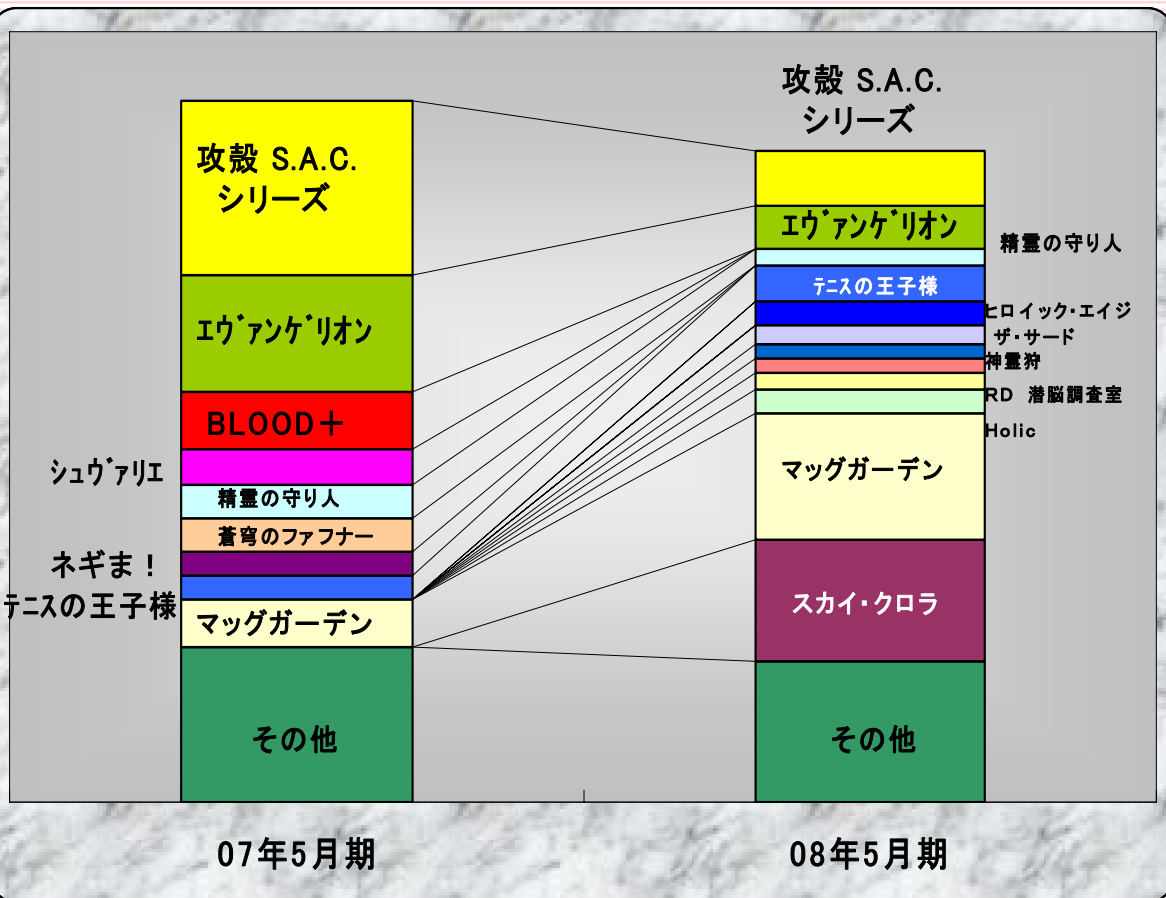
09年5月期
 「RD 潜脳調査室」「図書館戦争」「HoLic 継」「ワールドデイトラクション」「無限の住人」「かのこん」「To LOVEる」などを制作。
 また、当社初の実写作品であり、ビジネスモデルとしては玩具マーチャンダイジングモデルである「ケータイ捜査官7」を制作。

2009年5月期決算(著作権収入構成・前年同期比)

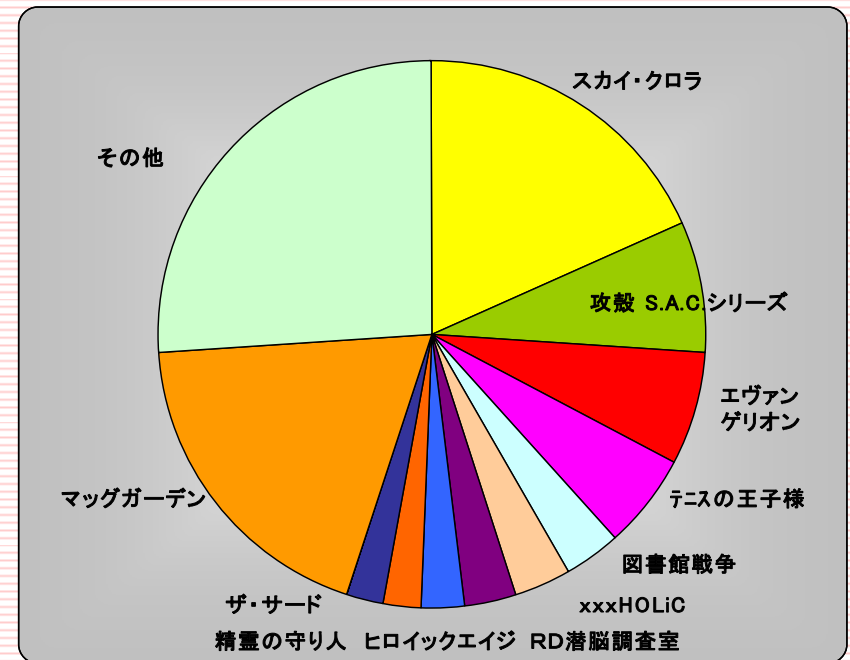
■09年5月期よりマッグガーデンが通期連結となったためマッグガーデンの著作権収入は大きく上申した。また、劇場大作「スカイ・クロラ」の劇場興行収入が大きく計上された。

■全般的にDVD販売数の低迷により、新作TVアニメ作品の著作権収入は低迷する傾向が続いている。

著作権収入構成前年同期比



09年5月期 著作権収入構成比

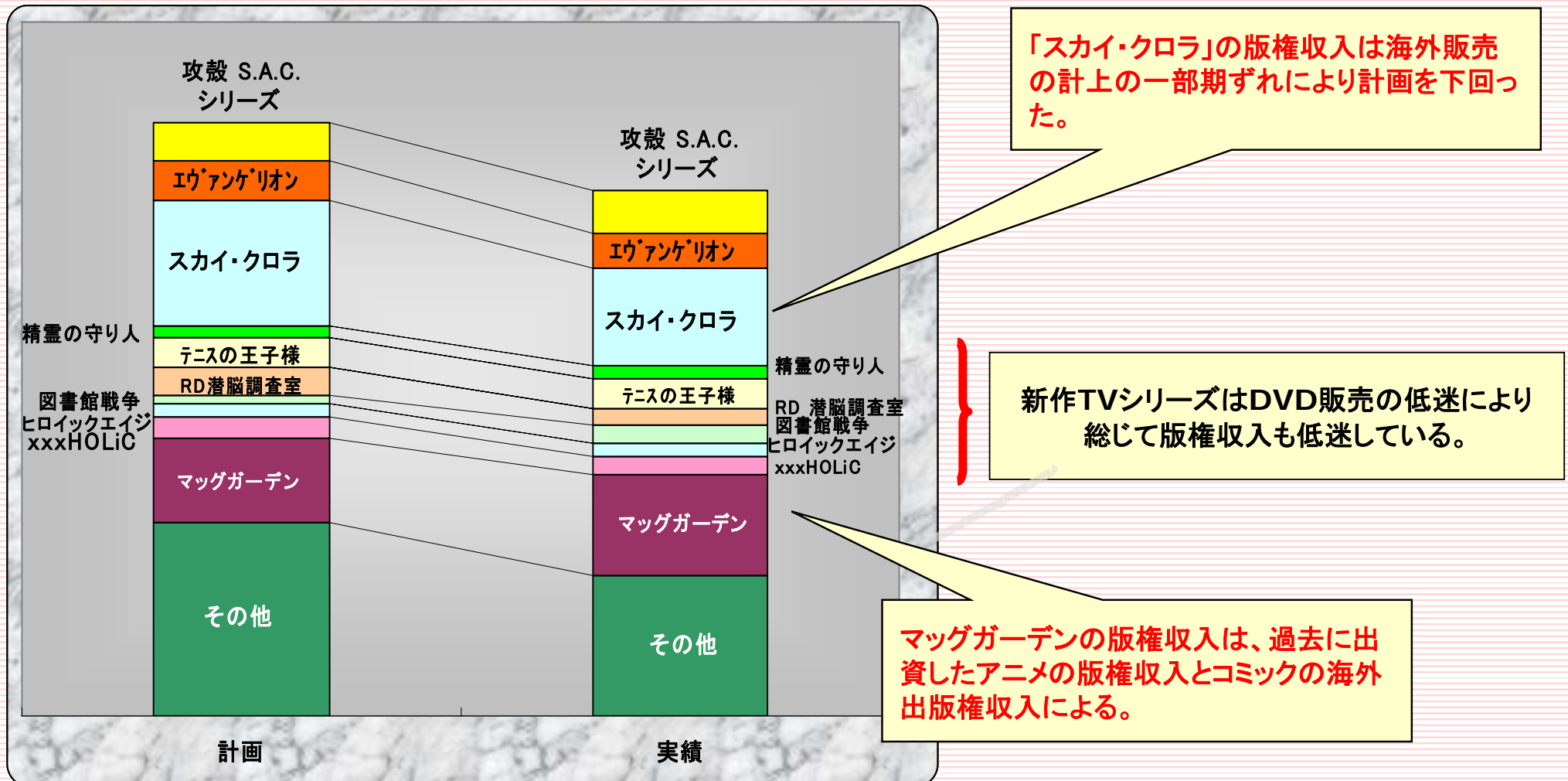


2009年5月期決算(著作権収入・計画対比分析)

■期初立案した著作権収入計画を下回って着地した。

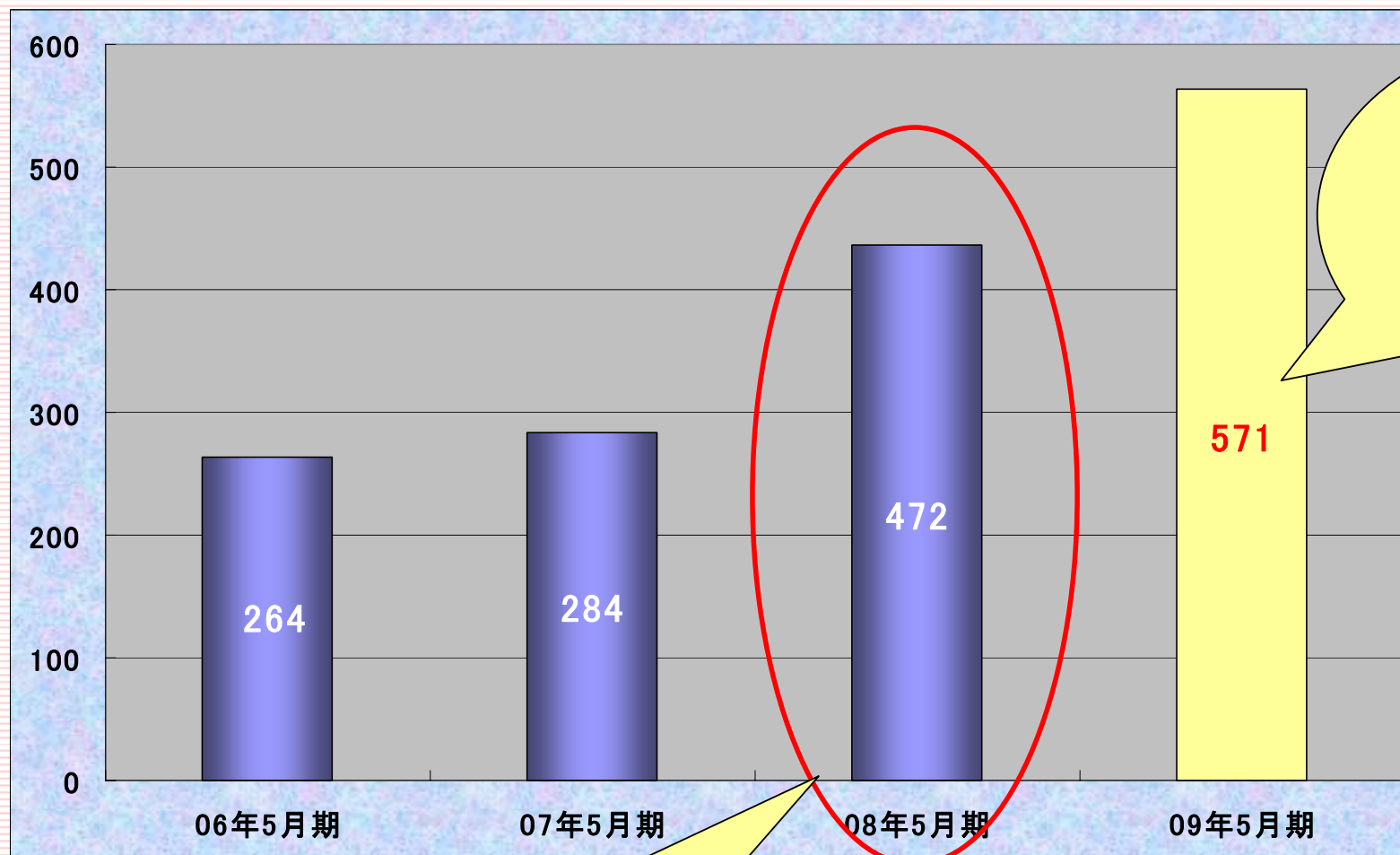
■大型劇場作品「スカイ・クロラ」の海外販売収入の計上が一部期ずれとなったことと、新作TVシリーズのDVD販売の低迷が主要な要因である。

著作権収入・計画対比分析



映像マスター減価償却負担の推移

09年5月期の利益率低下の一要因は、映像マスター減価償却負担が大きく増大したことが一要因。著作権事業の営業利益38,423千円と前年比79.7%減となった。



当期は08年4月に当社が出資する大型TV作品が集中したため、前年比99百万円・前前年比287百万円の償却負担増となった。

08年5月期に映像マスターの耐用年数を2年から1年に変更

※①08年5月期には特別損失処理した償却額を含みます。

②09年5月期(予)にはLLPの連結として営業外損失で取り込む償却額も含みます。

当期のトピックス

1. 国分寺に分散しているスタジオの集約化を目指し武蔵野市に不動産を取得

■分散による賃借料負担の増加や機材設備等の固定資産の2重投資の削減が可能。



2010年に武蔵野市に取得した物件へ集約。国分寺所在のグループ企業プロダクション I.G 及びジーベックの年間賃借料1億円を可能な限り削減を目指す。

- ※①経費削減効果は現在プロジェクトチームを設立し算定中。
- ②取得物件は現状はテナントが入っており、移転までは賃借料収入が見込める物件。
- ③当初一部スタジオは国分寺に残る予定であったが、隣接地を追加で取得し、全スタジオの移転が可能となった。

2. トランスコスモスとの合併事業である amimo LLP を清算

■キャラクターを用いたブログサービス「デコブログ」を運営していたが、早期の収益化が見込めないため09年5月期で清算を行った。



2010年5月期業績見込

2010年5月期 業績見込み(前年同期比)

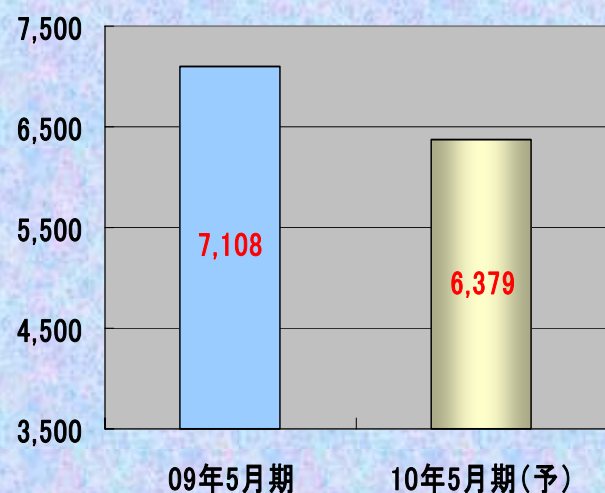
2010年5月期の通期業績予想は減収・増益の見込み

■売上高は09年5月期に大きく売上高貢献した実写作品がなくなるため▲10.3%の減収の見込み。

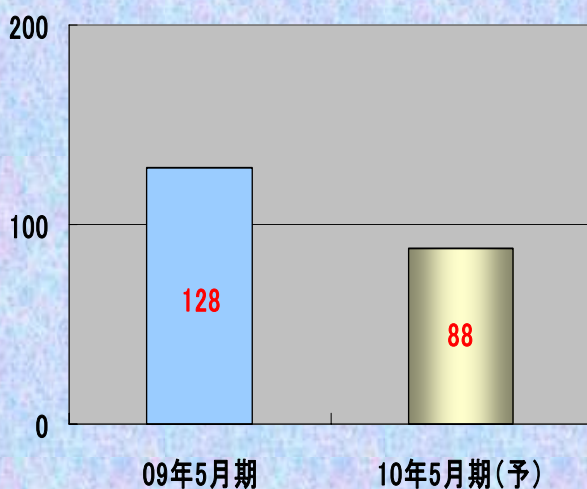
■TVシリーズ作品減少による映像制作事業の粗利率低下、アニメーションDVDの販売不振による著作権収入の減少などから利益予想は経常減益の見込み。

■ 連結売上高	6,379百万円(前年比	▲729百万円	▲10.3%)
■ 連結経常利益	88百万円(前年比	▲40百万円	▲31.7%)
■ 連結当期純利益	69百万円(前年比	+46百万円	202.6%)

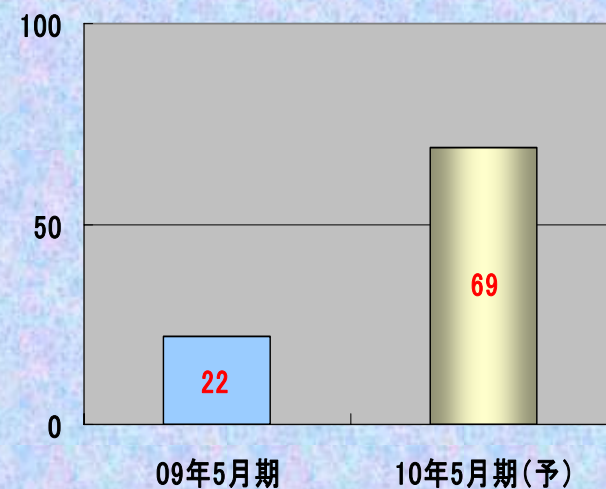
売上高



経常利益



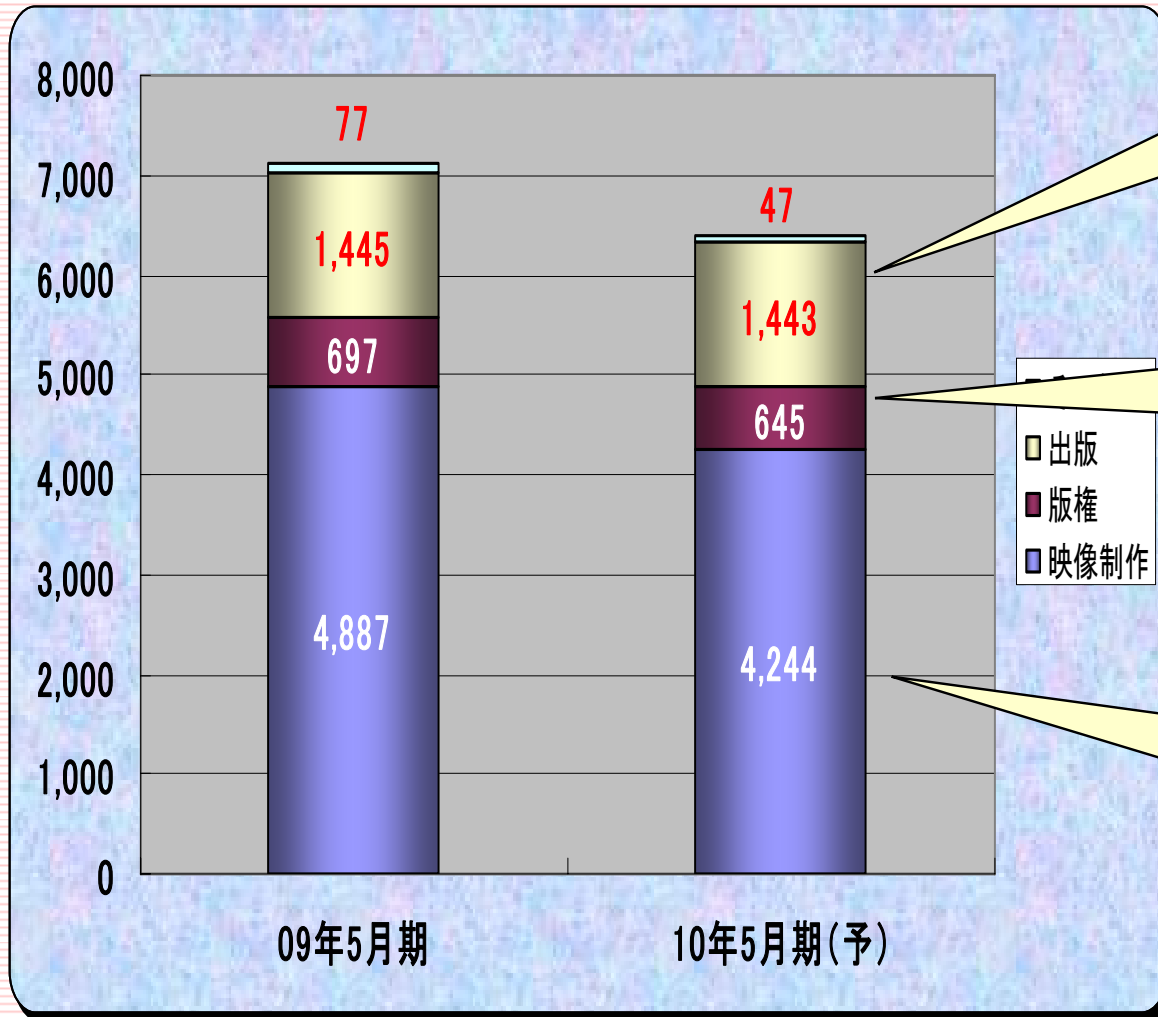
当期利益



単位:百万円

2010年5月期 業績見込(セグメント別分析・前年同期比)

単位:百万円



出版事業収入

コミック専門出版社マッグガーデンの出版事業収入。前期比ほぼ横ばいの見込み。

著作権事業収入

TVシリーズ「戦国BASARA」「東のエデン」および劇場作品「ホッタラケの島」等の著作権収入を見込む。TVシリーズの減少等により前年比▲7.5%を見込む。

制作事業収入

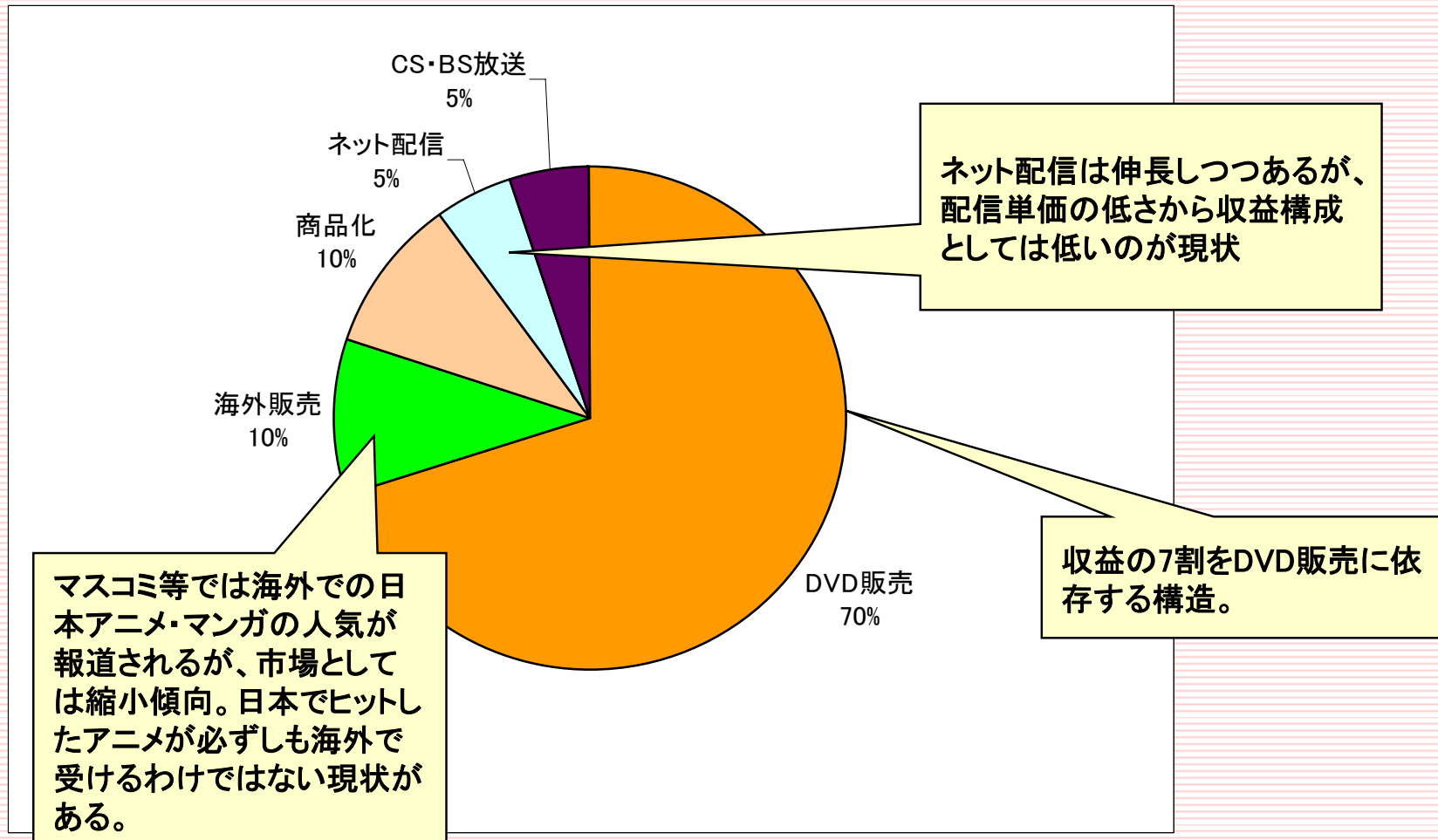
09年5月期は実写作品「ケータイ捜査官7」(セブン)大きな割合を占めたが、10年5月期は実写作品はなく、09年5月期比で▲13.2%を見込む。

09年5月期に大きな売上を計上した実写作品「ケータイ捜査官7」がなくなったことから映像制作事業が大きく減収。著作権事業収入もアニメーションDVD販売の不振等により減少する見込み。

アニメーション市場外部環境

アニメ市場の現況 アニメーション収益モデル

典型的な深夜(コア向け)アニメーションの収益モデルイメージ

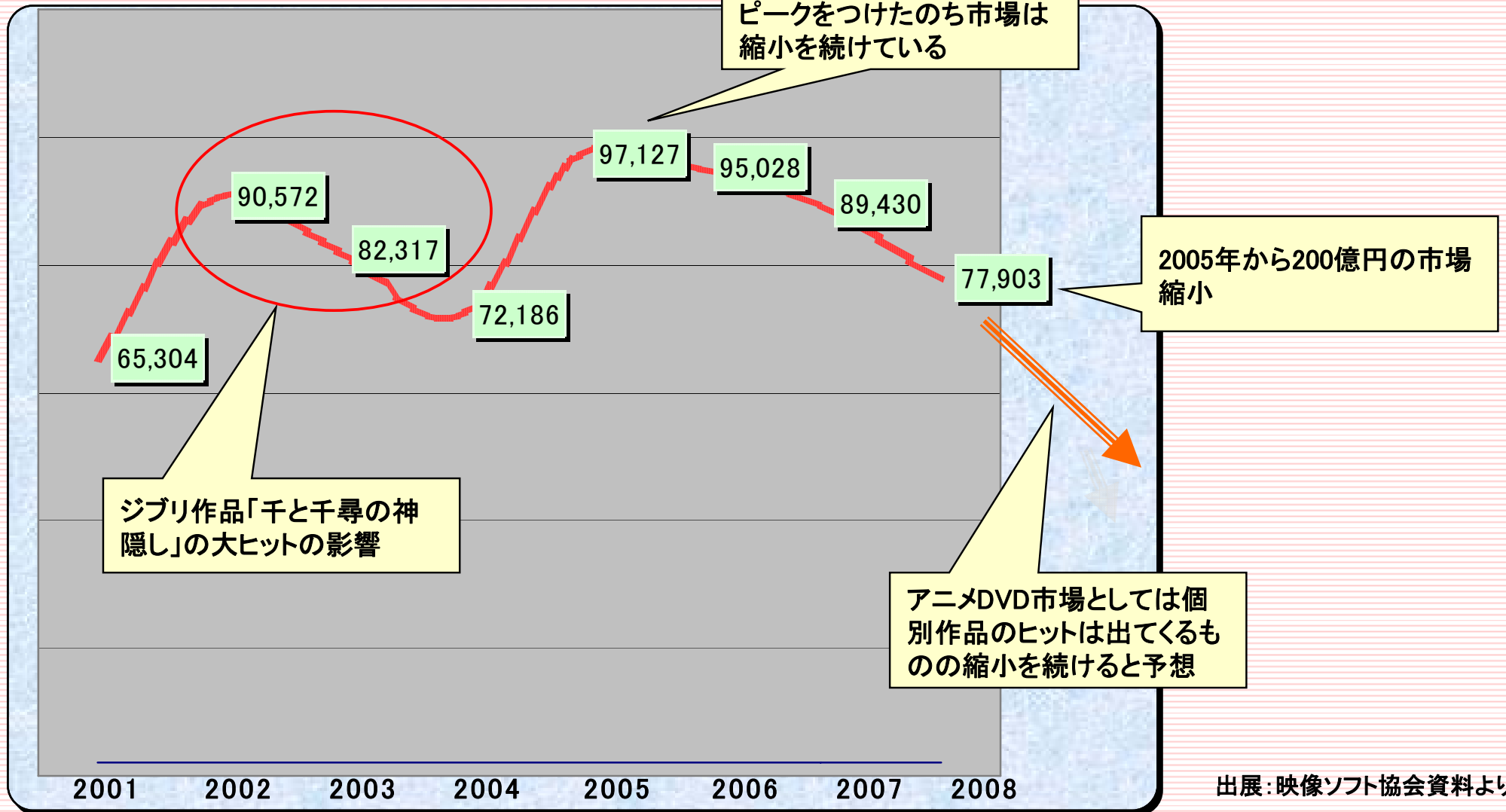


すべてのアニメーションが上記のような構造になるわけではありませんが、典型的なコア向けアニメの収益イメージとしては上記のような構成比となります。

アニメ市場の現況 日本DVD市場の推移

日本アニメーションDVD市場の推移

単位:百万円

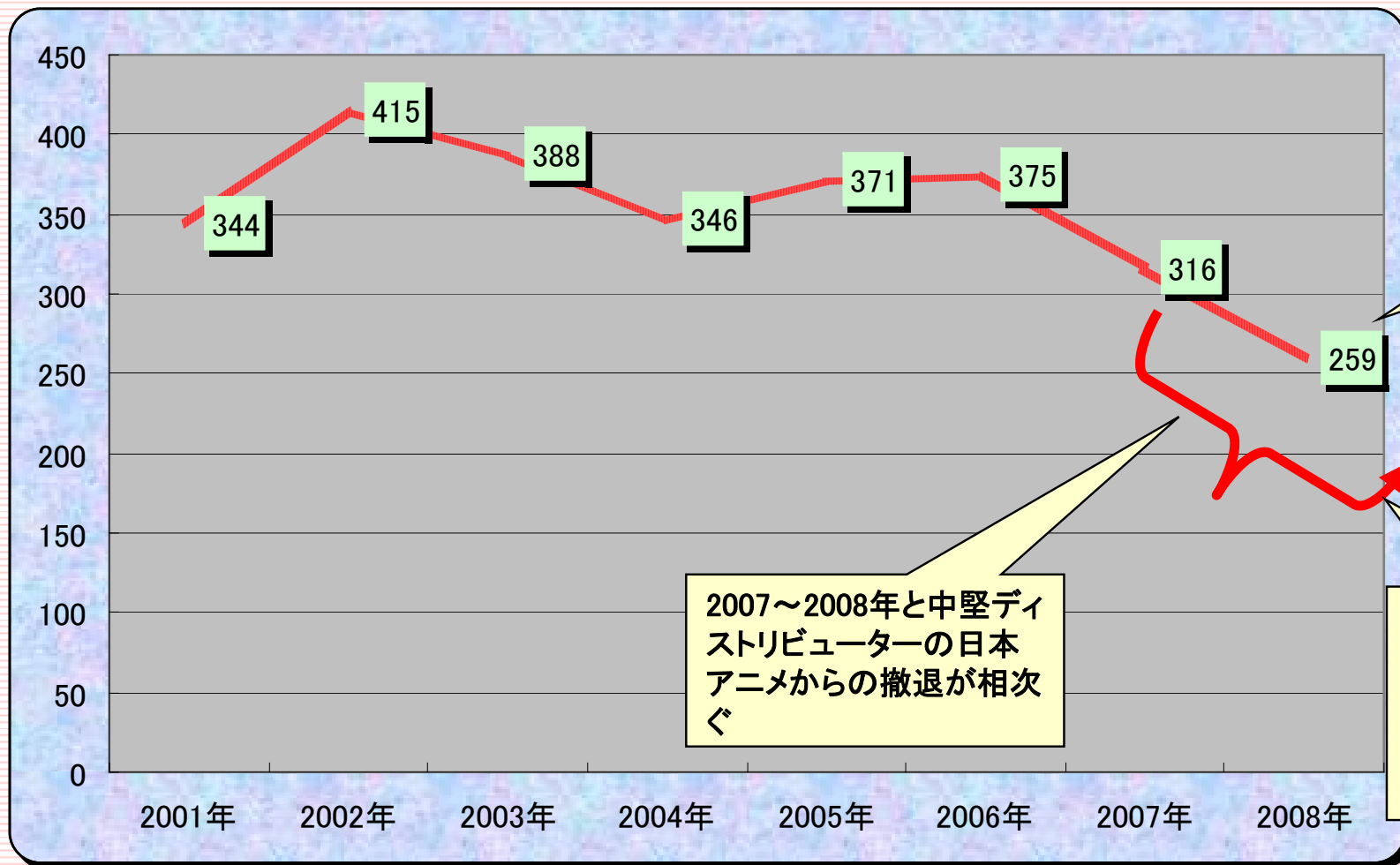


ハードディスクレコーダーの普及やネット配信(違法配信も含む)の伸長で「アニメDVDを買い揃えて所有する」という消費モデルが消滅しつつある。個別のヒットの規模も小さくなりつつあるのが現状。

アニメ市場の現況 北米市場の推移

北米アニメーションビデオソフト市場の推移

単位: 100万ドル



2008年はピークより1億5600万ドルの市場縮小

2007～2008年と中堅ディストリビューターの日本アニメからの撤退が相次ぐ

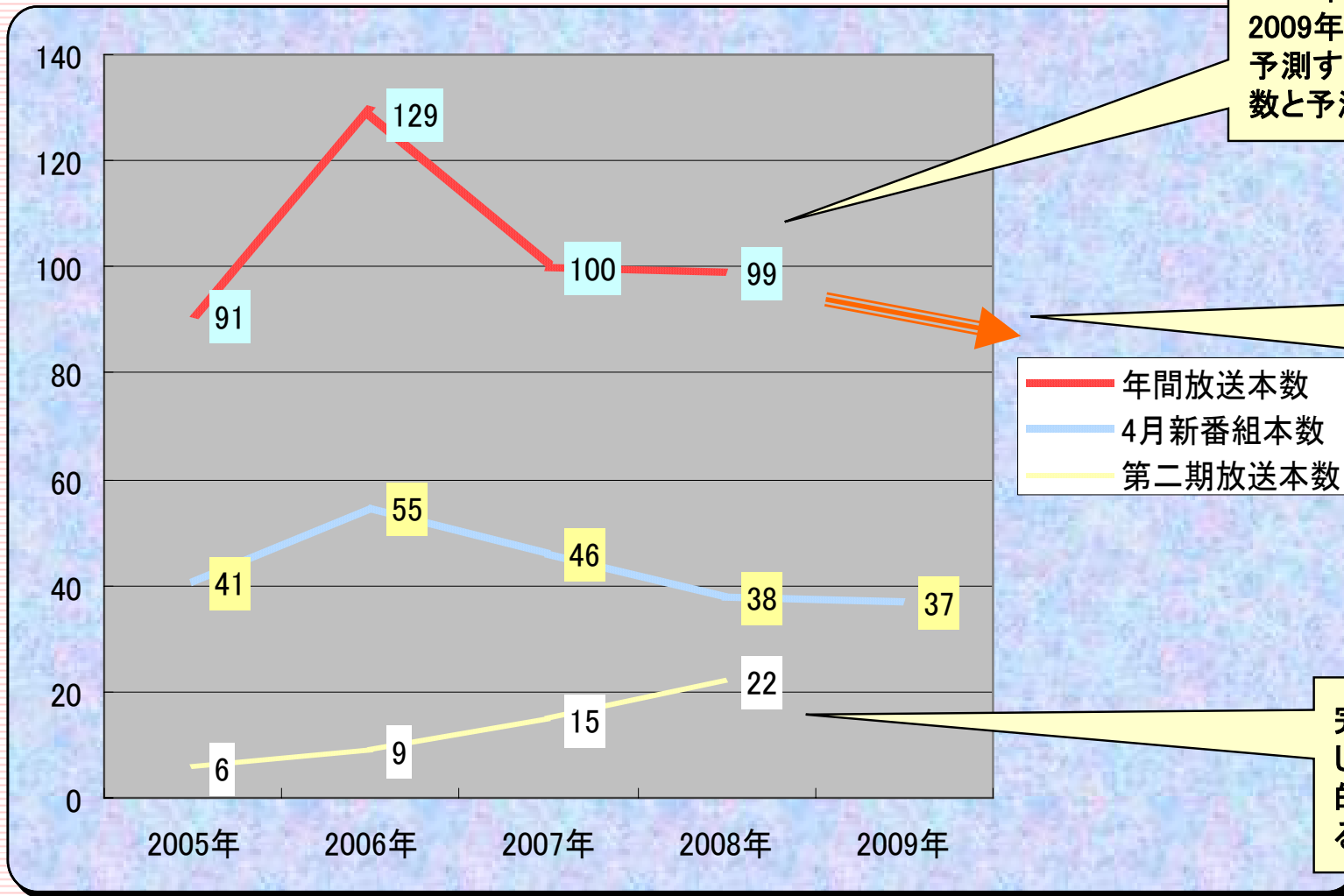
2007年から北米でもネット配信への取り組みが始まっているが収益モデルの確立にはいたっていない状況。

- ・北米市場への日本アニメの販売単価も2005年をピークに下がり続けている状況。ディストリビューターも内容をよく吟味して購入するようになっている。
- ・日本でヒットしたアニメでも北米では販売不振によりDVD発売が中止に追い込まれるなど日本アニメであれば売れるという状況ではない。

アニメ市場の現況 TV放送本数の推移

TVアニメーション放送本数の推移

単位:本



2006年をピークに減少傾向。
2009年は4月新番組数から
予測すると2008年並みの本
数と予測

アニメーションDVD販売販
売本数が落ち込む中、新作
アニメの放送本数はさらに
減少すると予測

— 年間放送本数
— 4月新番組本数
— 第二期放送本数

単位:億円

完全新作ではなく一度ヒット
した作品の続編(第二期)
的な作品が大幅に増加あう
る傾向にある。

放送本数だけでは図れないのが「放送話数」の減少である。近年2クール(26話)から1クール(13話)のTVシリーズが大幅に増加しつつある。アニメーションが収益を上げにくくなる中、アニメ制作費も削減される傾向にある。

アニメ産業を覆う三重苦

DVD販売不振

・コア向けアニメの収益モデルを支えてきた「ファンが高額なDVDを買い揃える」という消費モデルの衰退。

海外アニメ市場の不振

・アニメの大きな収益源であった海外のアニメDVD市場が縮小し、買い付け単価の引き下げが起きている状況。

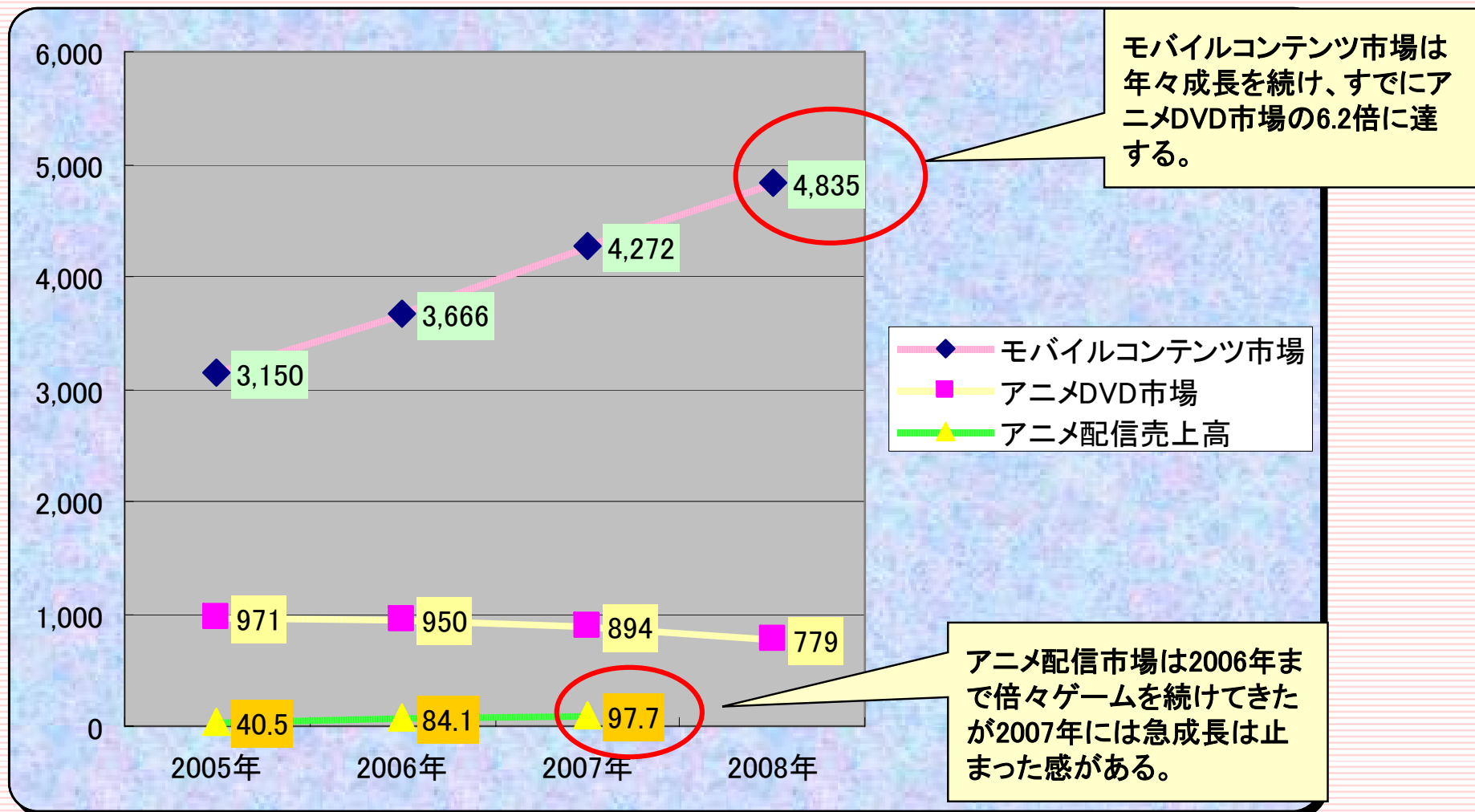
TVシリーズ本数減

・アニメが収益を上げにくくなる中、TVアニメ放映本数の減少・制作費の削減・一シリーズの製作話数の短縮化が顕著。

ご参考：伸長するモバイル市場

モバイルコンテンツ市場の推移(アニメDVD市場・アニメ配信市場対比)

単位：億円

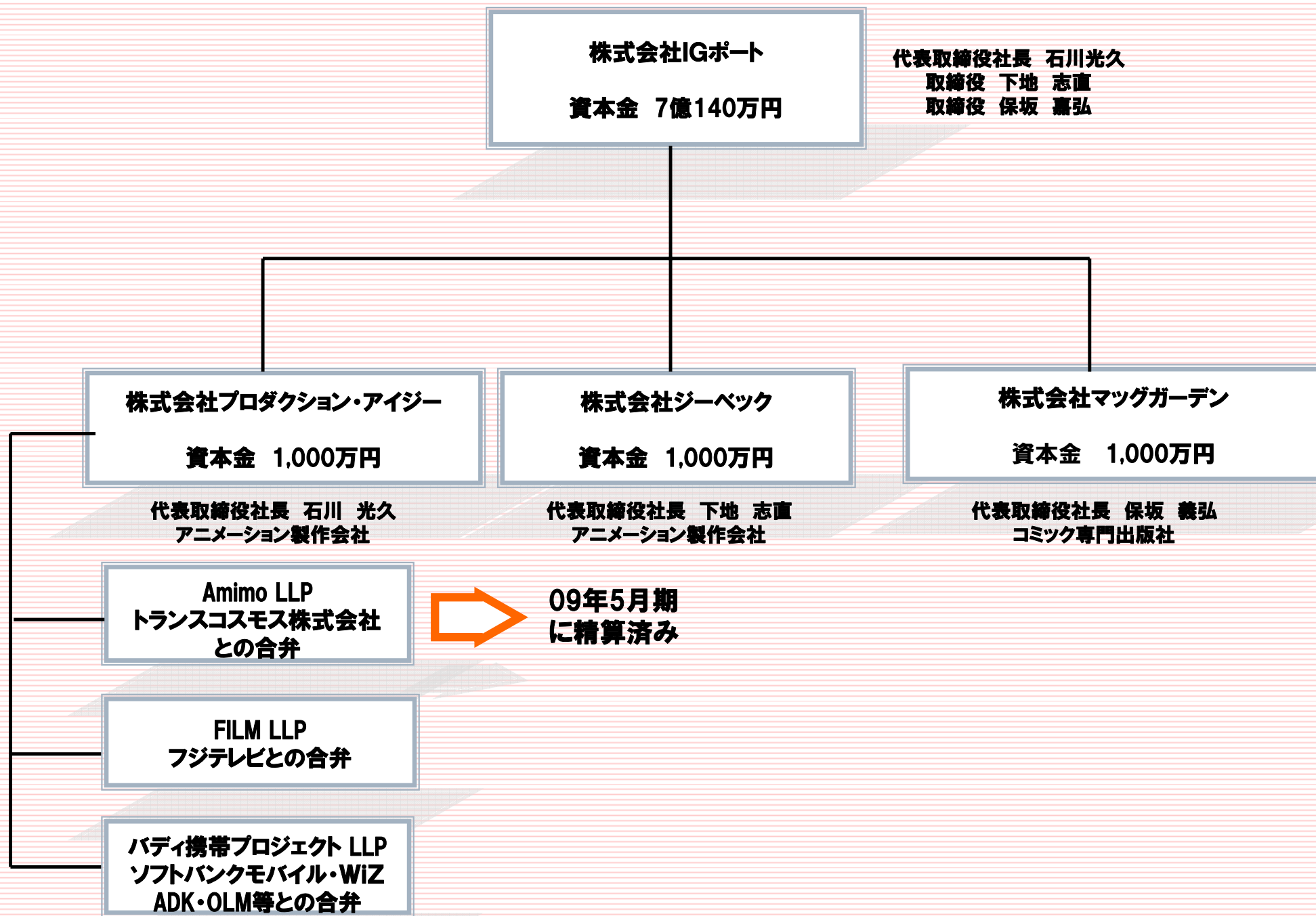


単にアニメをPC等で視聴するという市場は急成長が止まったが、モバイルコンテンツというカテゴリで見るとすでにアニメDVD市場の6倍に成長。

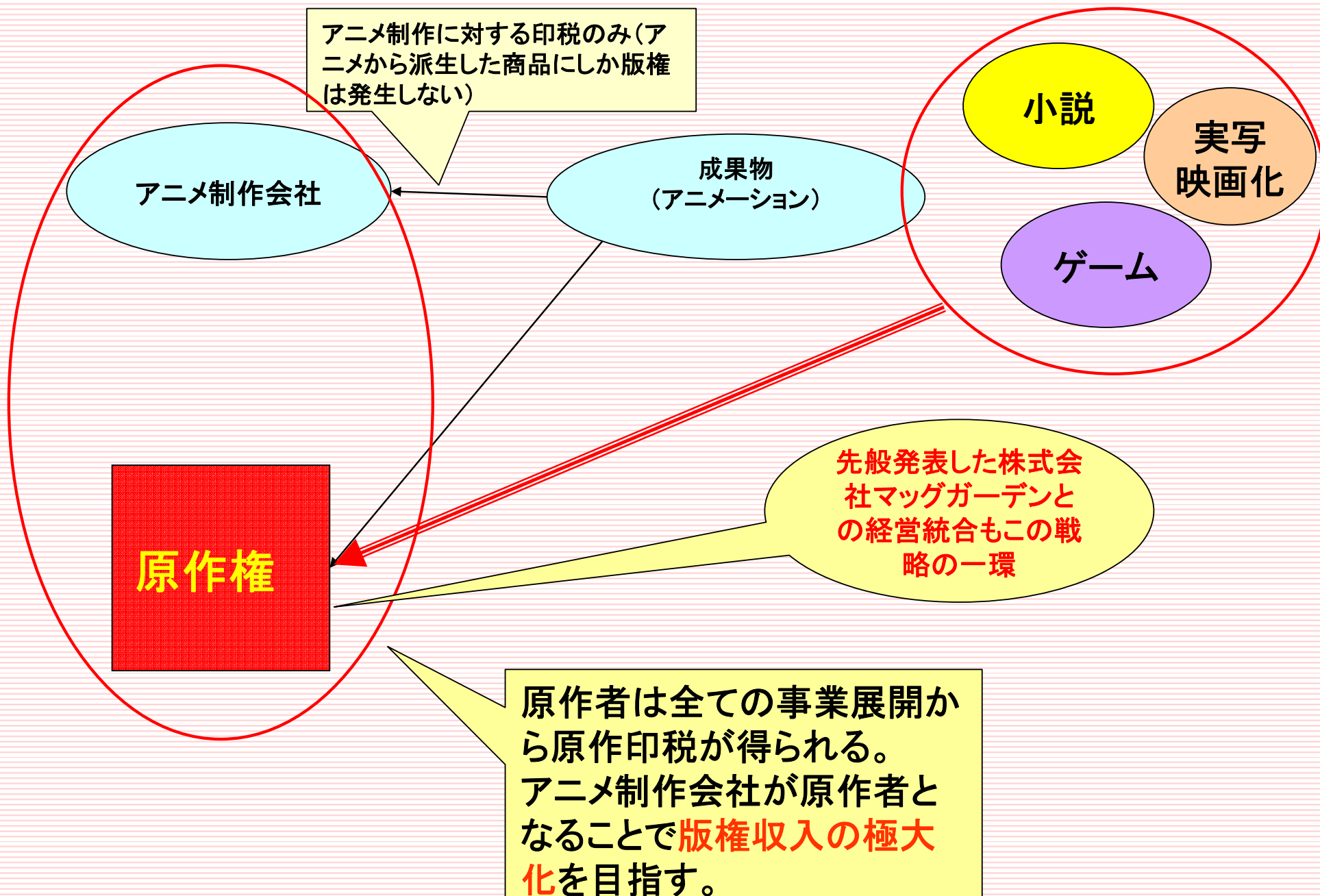
モバイルコマースを含むモバイル市場全体では1兆3524億円と急拡大を続ける。

株式会社マッグガーデンとの 経営統合と当社グループの戦略

2007年12月以降(経営統合後)のグループ図

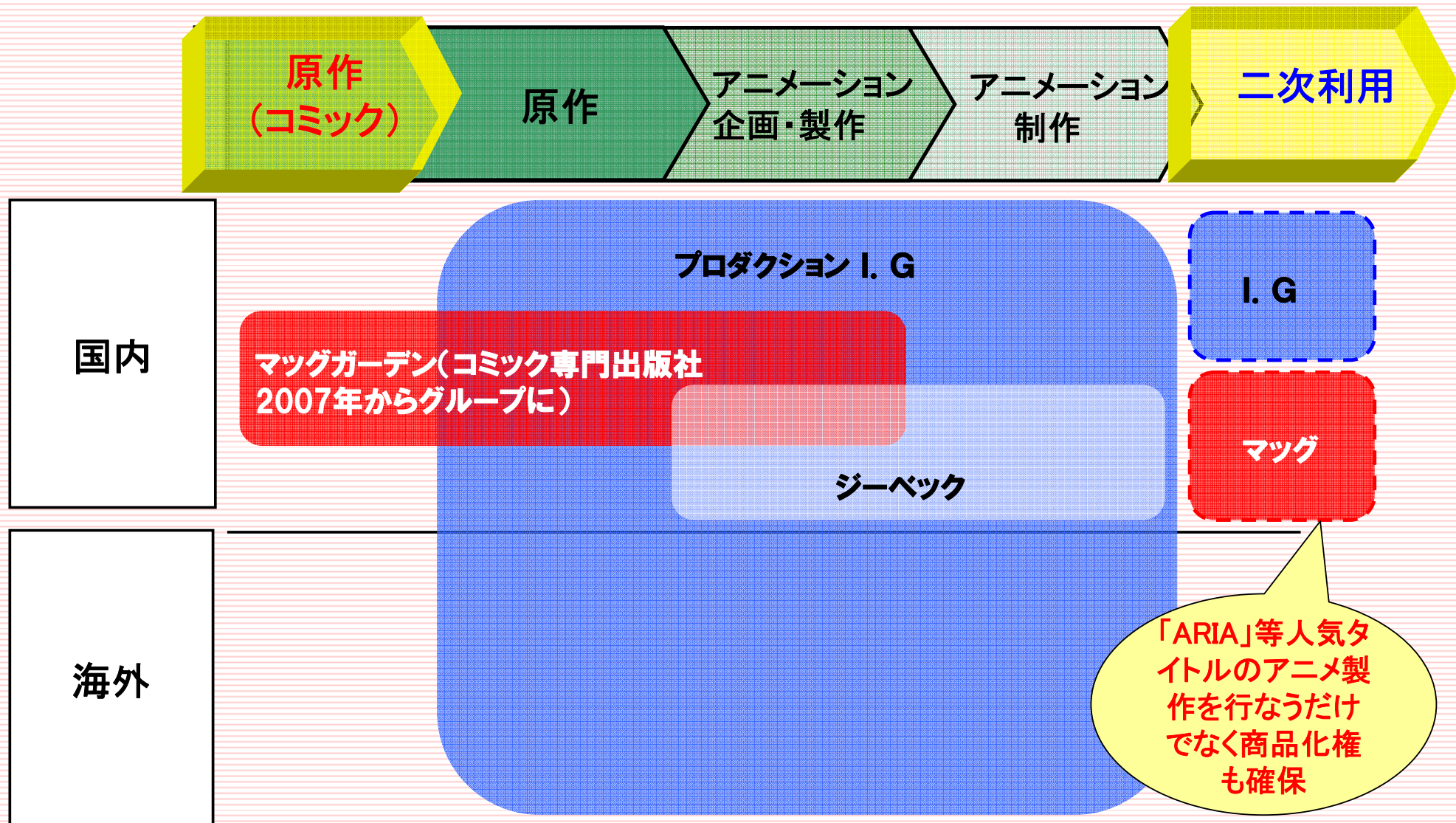


経営統合の目的・・・原作の確保



経営統合の目的・・・事業領域の拡大

07年にマッグガーデンがグループに入ったことで、事業領域の延伸が可能となった。



原作コミックの出版から、商品化までを行うことが可能となり、ヒット作輩出時のリターンは大きい。

ただし、マッグガーデン原作の当社グループでのアニメーション化には原作の蓄積が必要であり、もう数年はかかると予想している。

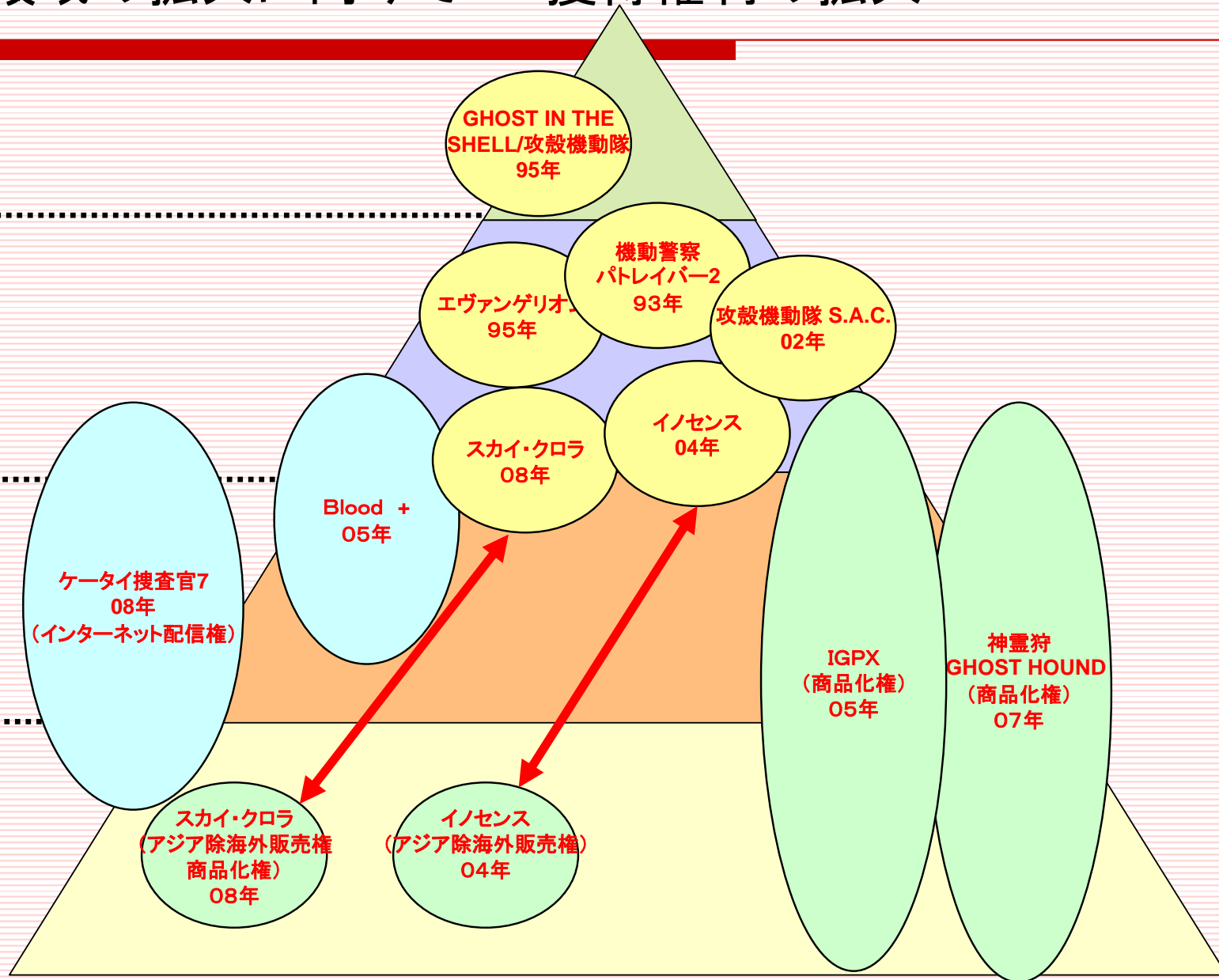
事業領域の拡大に向けて・・・獲得権利の拡大

制作請負のみ

製作出資

原作獲得

二次利用権獲得



当初は下請けからスタートした当社だが、93年の「機動警察パトレイバー2」への出資から、製作委員会への参加を開始。04年の「イノセンス」では海外販売権を獲得するなど、作品の二次利用権を獲得しつつある。これら獲得権利によるノウハウはマッグガーデンとの経営統合による事業領域の拡大にも寄与すると想定。

ネット・モバイル市場への取り組み

当社グループでは権利獲得したコンテンツに対して下記のような取り組みを積極的に行っています。

配信

デジタル
コンテンツ①

デジタル
コンテンツ②

デジタル
コンテンツ③

PC

モバイル

当社原作※のVFX
ドラマ「ケータイ
捜査官7」のネット
配信をバンダイ
チャンネルで2009
年6月12日開始。

個人のブログに貼
り付けて個人間で
紹介できるサービ
スをバンダイチャ
ンネルが開始



実演者への権利処理が困難
な実写ドラマを共同制作先
と共同で権利処理を実施し、
配信にこぎつけた

当社制作のTVアニメ
「戦国BASARA」の携
帯着せ替え等マイ
ルライセンスを積極
的に展開

マッグガーデンが
2009年9月18日より
YAHOO! JAPANコミッ
クでインターネット
雑誌「EDEN」を
配信開始。



『マーベリック・スパイ
～秘密の島のスパイたち～』

弊社原作の「ケー
タイ捜査官7」もギャ
グ4コマで配信開始。
当社原作作品のスピン
オフでグループシナ
ジーを目指す。

マッグガーデンではこの
ほかに過去の人気作品の
連載再開をモバイルで開
始すべく準備中

株式会社ペソアが開発
したモバイルゲームの
キャラクターデザイ
ン・ビジュアルを作成。
配信価格から一定料率
をロイヤリティとして
得るスキーム

お取り扱いの注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的とはしておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した物であり、潜在的なリスクや不可実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。